

## ◆ 平成28年度活動報告シート ◆

団体名：NPO法人 いろいろ生きものネット埼玉

19A-18

代表者：代表理事 脇坂純一

URL : <https://sites.google.com/site/saitamainenet/>

### 1. 活動が必要とされた状況

- ① 狭山丘陵の里山保全及び外来植物の除去活動：狭山丘陵の保全活動は、継続的な取り組みが必要。原市沼川のオオフサモは、まだ繁茂しているため、除去活動が必要。
- ② 生物多様性保全の普及啓発活動：住民の理解と活動を促すためには、役に立つガイドブックや事例報告の発行、効果的なフォーラムの開催などが求められる。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ① 狭山丘陵の里山保全及び外来植物の除去活動
  - ・ 里山保全活動は、「奇数月の最終日曜日に実施」というルールを作り、年6回、各回3～9名の参加を得て、下草刈り、常緑樹の伐採、シイタケの収穫と新たなコマうちなどを実施した。
  - ・ 原市沼川の特定外来生物オオフサモの除去活動は、様子をモニタリングしていたが、H28/10月に、13人(外部3人)、H29/1月には会員12人で実施した。準絶滅危惧種のコウホネの繁茂量が増加していることが確認された。
- ② 生物多様性保全の普及啓発活動
  - ・ H28/10に「埼玉県の野外植物観察に役立つ 外来植物ポケットブック」を2,000部印刷した。
  - ・ H28/10/21～23にイオンレイクタウン店で開催された「ACT Green ECOWEEK 2016」に参加した。(来訪者 600人)
  - ・ H29/2に「オオフサモ除去実践活動報告書」を500部印刷した。
  - ・ H29/2/25に、「市民による生物調査の新たな可能性～観察記録を市民科学へ～」をテーマに第3回生きものフォーラムを60人の参加者を得て開催した。



### 3. 活動の成果

- ・ 緑の森博物館の当団体管理地(0.9ha)の里山整備がさらに進んだ。
- ・ 原市沼川のオオフサモは、繁茂量が相当減少した。
- ・ オオフサモの除去活動はかなりノウハウが蓄積できたので、上記報告書を発行できた。オオフサモ除去実践活動に関するこれだけ詳細な報告書は過去に例がないと思われ、貴重な成果と考える。
- ・ 外来植物ポケットブックは多くの活動団体などから引き合いが多く大変好評だった。在庫が乏しくなったので29年度には、より充実した内容の改訂版を発行予定。
- ・ フォーラムでは、幅の広い報告により、「市民科学」を多角的に広報できた。

### 4. 今後に残された課題

- ・ オオフサモ除去活動は、地元団体を巻き込み継続し、根絶すること。
- ・ 里山保全活動は楽しいものとし、新人も勧誘すること。
- ・ 生物多様性保全活動を促進する多角的な情報発信役を担いたいと考えるが、そのための自らの活動の強化と先進団体の活動情報の収集。